



## ■創業コース編

## 1. 企業創出の心構え

## 第一回 ＊ 日のあたる道を歩く経営

企業の目的は「永遠に継続発展し、社会に貢献する」ことであり、そのためには適正な利益を上げなければなりません。近年、グローバル化や情報技術の発展、国際市場における競争激化、消費者をはじめ社会から企業行動への激しい批判などを背景に企業の社会的責任(CSR)への関心が高まっています。その取り組みが世界的レベルで注目される中で、企業と環境・経済・社会との共生が、企業の持続可能な発展の視点から重要なテーマとなってきました。もちろん、中小企業もその一員として大企業や社会と共に持続可能な発展をしなければなりません。

## (1) 日のあたる道を歩く

「日のあたる道を歩く」とは、私の著書「60才からのギアチェンジ」の中で”創業時からの経営理念である「産業人として使命を認識して、その使命に徹し、さらに自然の偉大さを尊び、社会の公器としての自覚と責任をよく考えて、世間に愛される会社として向上発展を追求する。仕事は、感謝の気持ちを持ち、素直な気持ちで喜びを持って行う。そして創意工夫をこらし、すべての人から喜ばれる仕事を日々新に一步前進できるよう差善をつくして行う。」ことを経営の背骨として正攻法で小さくてもきらりと光る純金の高品質さで日のあたる道を歩いていくことを経営のモットーとしてきた”と紹介してあります。

## (2) あなたの創業・開業の動機と目的は

創業・開業にあたっては「不転」の覚悟が必要です。何故なら失敗は許されないからです。創業・開業前の心構えは、最初の最大の決断であるといえます。そのためには、経営理念を明確にしておくことが望ましいことです。

## ● 「こころ」の準備

創業・開業の看板を掲げたからといってお客が殺到するものではありません。創業・開業は事業の立ち上げです。そして、一流を目指さなければ必ず三流で終わるか挫折するだけです。大切なことは、創業・開業の目的をはっきりすることです。何故なら、ビジネスをやっている長い期間中には苦境の時期が

必ずきます。その苦境に立ったときに「何となく」では踏ん張りが効かないからです。

#### ●経営理念の明確化

創業・開業を決断したからには、当初苦難の道があろうとも途中で挫折してはなりません。まず、自らの信念に基づいたキーポイントを、たとえば「創業の決断」とか「わが創業の指標」とかで「経営理念」としてまとめ「座右の銘」にすることをお勧めします。

それは、期待したように実績が上がらず不安にかられる時期に遭遇しても心の拠り所になるからです。

#### ●あなたの動機は何か

創業・開業の動機は百人百葉、さまざまですが「自分のビジネスを通じて社会貢献する」などの大義名分があれば、なお強いです。そして、独創性・興味・成長性・興奮できる感情・所有している満足感などで自分がメラメラと燃えられる動機があれば、従業員や他の人たちが、あなたのその情熱に惹かれてついてきます。「背水の陣」という言葉があるように切実な動機のほうが強烈なパワーがでるので成功の確率が高いといえます。

事業計画は「紙に書かれた、たった一行の夢」から始まるのです。自分は何のためにビジネスをやろうとするのか、その創業・開業の動機を明確に記録しておきましょう。そして、しばしば見直してください。それが成功への近道です。

「夢は大きく、現実にはシビアに」計画を進めましょう。その夢を具体的な形にするのがあなたのビジネスの活動であり、努力です。すなわち、「もうける」ことです。